

「NPO 法人瀬戸内西部遊漁船協議会」活動報告

日 時 平成 29 年 7 月 2 日 (日) 4:30～16:30

内 容 第 1 回タイラバ大会
(釣り大会・清掃活動・稚魚放流)

参加者 総勢 170 名
大会参加者 120 名
協議会員 27 名
大会協力者 23 名

大会出船数 16 艇 (放流船 1 艇を含む)

大会協賛メーカー 39 社
大会協賛企業・店 30 社
大会協賛(個人) 1 名

報道機関 TV チョーさんの釣り情報(7月23日放送予定)
雑誌 釣り画報 8月号(7月20日発売)

活動プログラム

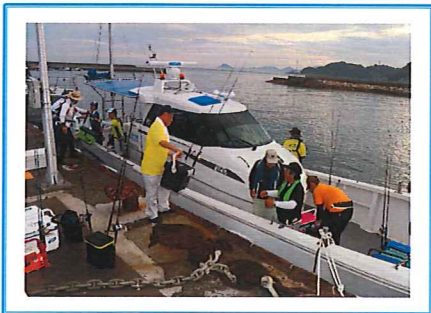
- 04:45 駐車場解放 随時受付開始
- 05:45 開会式(理事長挨拶・趣旨説明・大会ルール説明)
- 06:15 乗船開始
- 06:30 各船スタート競技開始
- 07:00 陸上スタッフ 11名による会場周辺及び海岸清掃活動(約1時間30分)
- 13:00 競技終了
- 13:30 稚魚放流(真鯛 8cm 約 2000 匹)
- 13:40 検量開始
- 14:20 海上保安庁交通課(峯吉課長・岡崎係長)による安全セミナー
- 14:35 トークショー
- 14:50
- 15:00 表彰式
- 15:15 お楽しみ抽選会
- 15:25 記念撮影
- 15:30 閉会式
- 15:40 参加者解散
(別添写真参照)

活動内容

梅雨の中休みと言った感じで、明朝より一日の暑さを予想するような快晴の中、スタッフ一同が4時30分に集合となった。

既に到着している参加者もいて、駐車場解放を15分前倒しと受付開始とした。お互い知らない参加者同士も道具の積み降ろしを手伝い合い、案内スタッフの柔軟な対応により受付も早い段階で終わることが出来た。参加者も当日キャンセルもなく120名全員が会場に揃ったところで開会式となった。

瀬戸内西部遊漁船協議会 井上理事長より挨拶と趣旨説明があり、協議会発足の意義を理解してもらった。その後、大会実行委員長 浜本船長よりルール説明すると共に、桟橋には続々と出船艇が接岸し乗船に備えた。



受付、乗船がスムーズに進んだことにより、競技時間を30分早くスタートする事とした。

6時30分、各船一斉にスタートし思い思いのポイントに散らばって行った。

スタート開始30分後には、早くもタイの釣果報告が有り好調状況が予想された。

7時30分 陸上スタッフ 11名による堀江港(大会会場)周辺及び海岸線清掃活動を約1時間30分で行い、大型ごみ袋15袋を収集した。主に海岸線にはペットボトルが多く漂着しており、船からの投棄もあるものと予想されることから、今後の活動を通して釣り客に指導していかなければいけないと感じた。



12時に御荘町よりタイの稚魚(約8cm 2000匹)が陸送トラックで到着し、放流魚配布母船に積み換え作業を開始した。

13時各船より沖アガリの連絡が入り、13時30分堀江港沖に続々と船が帰港してきた。事前に割り振られた7船はそのまま放流魚配布母船より、バケツに入った稚魚を受取り船長の指示に従い、瀬戸内の鯛の豊富な状況を維持してくれることを願って大会参加選手の手で放流が行われた。



桟橋に到着した船からは重たそうにクーラーを運ぶ参加者や、知人と釣果を報告し合う声で静粛していた堀江港が一気に活気だった。

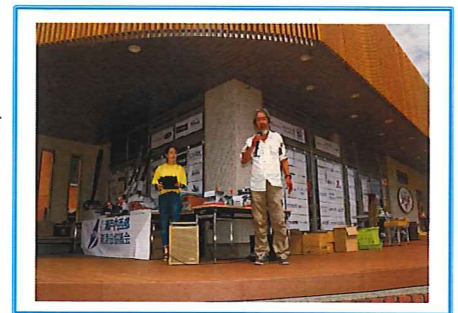
続々と検量会場に魚が持ち込まれ、検量器周辺には大きな輪が出来、大きな鯛が出るたびにため息やら歓声が上がった。検量結果は随時本部集計係へと運ばれ、集計結果待ちとなった。

14時20分より第六管区海上本庁交通課(峯吉課長、岡崎係長)による安全セミナーが約15分ではあったが、海上事故の連絡先(118番)の携帯登録や家族への海に行く事、帰宅時間の報告の重要性また、一番大切なライフジャケットの着用など分かりやすく、的確に説明が行われた。本大会に参加しなかった釣り客にも今後、乗船時に伝えるよう遊漁船船長の使命であることを実感した。



14時35分より、メーカー4社によるトークショーが行われ、ご当地的な瀬戸内ならではのタイラバの話や、釣り方について話してもらい大会参加者は食い入るように聞き入っていた。

14時50分より、来賓として遠い所、足を運んで頂いた「NPO 法人瀬戸内遊漁船釣り団体協議会」の福本会長にお言葉を頂きました。本協議会のお手本となる団体で、いろいろな取り組みをされており、今後ともご指導を仰ぎたいと思います。



14時50分 検量集計が終わり表彰式となった。

120名参加中 76名が鯛を検量に持ち込んでおり産卵後の登り調子な状況を感じる結果となっていた。

他魚の部、レディースの部、ブービー、ビックフィッシュ、7位から優勝者への順に発表があり、名前が呼ばれ照れくさそうに出で来る選手や、同じグループで来た釣り仲間に祝福されガッツポーズで出てくる選手など大いに盛り上がった。

表彰式終了後、大会参加者、スタッフ一同での記念写真を撮影

15時40分 村上副理事長の閉会のあいさつを終え解散となった。

(総評)

今回「NPO 法人瀬戸内西部遊漁船協議会」発足1年を迎えるにあたり初めての釣り大会の開催と言う事で、各メーカー・釣具店・協賛企業・個人・漁協・堀江港周辺住民の方の多大なる支援と協力により大会が成功する運びとなったことを心より感謝すると共に、愛媛県内

外から参加して頂いた参加者に、協議会の存在・趣旨を伝える事が何よりの収穫であったと協議会メンバーで実感した。

今後も、更なる協議会の活動の拡大と社会貢献、環境保全、安全釣行の普及啓発等行っていきたい。

